

暮らしの質向上検討会第3分科会 取りまとめ（案）

Ⅲ. 各テーマごとの検討

（略）

3. 活動しやすくする工夫

（1）総論

（はじめに：提言のポイント）

○活動しやすくする工夫について

- ・産前産後、子育て期を中心に活動に制約のある女性、積極的に社会貢献したい女性（子育てが一段落した女性等）等、女性の置かれたシチュエーションごとに、女性を活動しやすくするために期待される「民間の創意工夫」を整理。
- ・当該創意工夫を広める施策を進め、民間の取組を強化することにより、女性が活動しやすい社会へと持続的な変化を促進する。

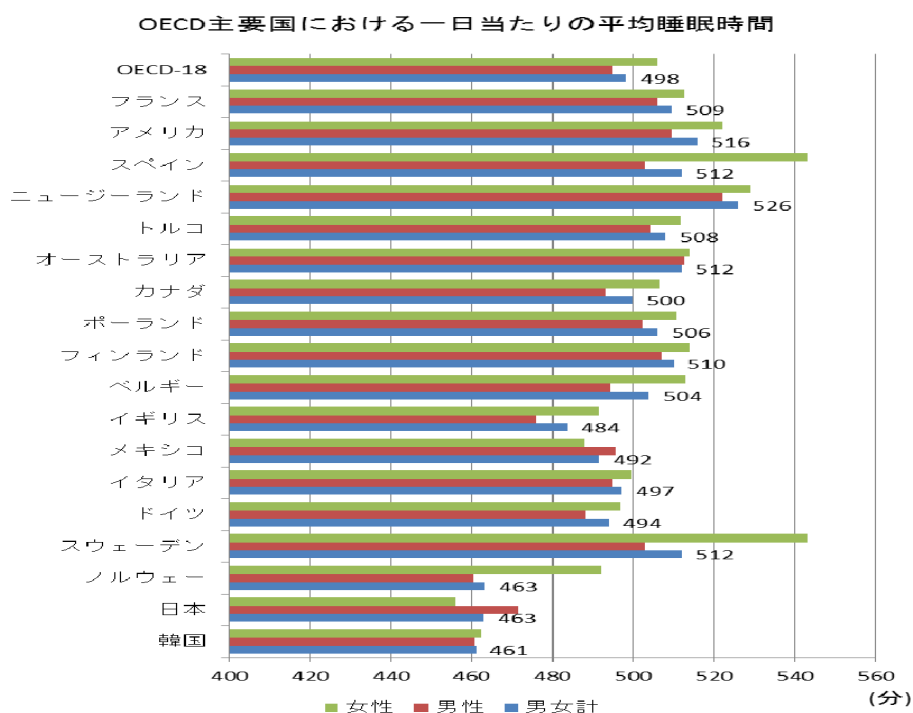
（はじめに～睡眠時間の各国比較）

○女性の暮らしに関して試みに睡眠時間について見てみると、2009 年の経済協力開発機構（OECD）のデータでは、日本人の平均睡眠時間は 7 時間 50 分で、韓国（7 時間 49 分）に次ぎ、第 3 位を引き離した第 2 位の短さであり、OECD 平均（8 時間 18 分）より 28 分短く、かつ、年々減少の傾向にある。

しかも、女性に限れば、日本人は 7 時間 36 分で最短（第 2 位（韓国）は 7 時間 42 分）、OECD 平均（8 時間 26 分）と比べると実に 50 分も短く、日本人男性（7 時間 52 分）と比べても 16 分も短い。日本の女性は、とにかく時間のやりくりで苦勞している状況が浮かび上がってくる。

○豊かでゆとりある家庭生活の実現に向けて、夫婦の時間、子育て時間、睡眠時間の確保、子育てサポート、妊婦の安心・安全、地域での取組の充実、暮らしやすい生活環境を実現のための取組を推進していくことはすべての女性にとって重要であると考えられる。

Ⅲ－３－１ 図 睡眠時間の国際比較



(備考) OECD based on data from National Time Use Surveys より作成

(女性の置かれたシチュエーションの分類～活動しやすくなる工夫を考えるに当たって～)

○このように、日本の女性は睡眠時間を削らざるを得ないような状況にあり、女性が活動しやすくなるためには、まず、このような状況を改善する必要がある。その検討に当たっては、例えば、社会との関係性（例：学び、活躍、他者へのサポートを人生の時期としてとらえる）、生き方の価値観（例：子供を授かることを選択するか否か）等、女性の置かれたシチュエーションごとに様々な視点が考えられるが、本提言では、以下のデータに注目した。

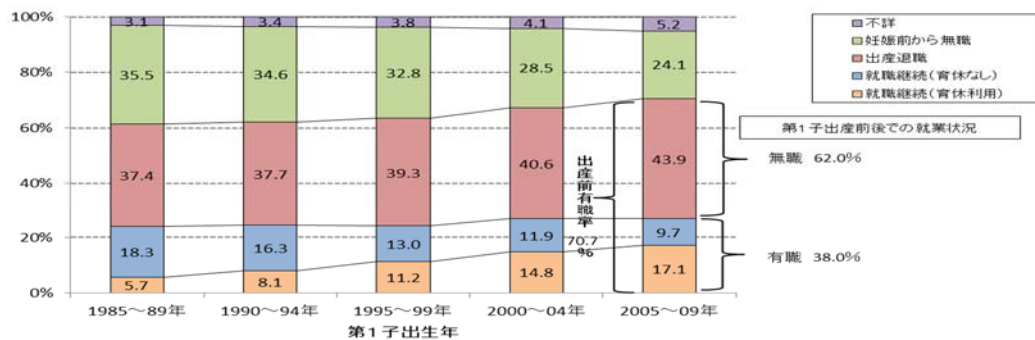
○国立社会保障・人口問題研究所の「第14回出生動向基本調査」の結果から、第1子出産前に有職だった女性の約6割が出産前後で離職していることが分かる。なお、この割合は、昭和60年以来殆ど変わっていない（Ⅲ-3-2図）。

また、労働力調査でも、上記の離職を反映して、いわゆるM字カーブと言われる現象（労働力率が30歳代で低くなる現象）、M字の右肩の40

歳代以降でも非正規雇用が多いという現象が起こっていることが分かる（Ⅲ-3-3 図、Ⅲ-3-4 図）。

○すなわち、現実問題として、出産・子育てが、女性のライフイベントとして、その後の人生設計に大きな影響を与えていると考えられる。

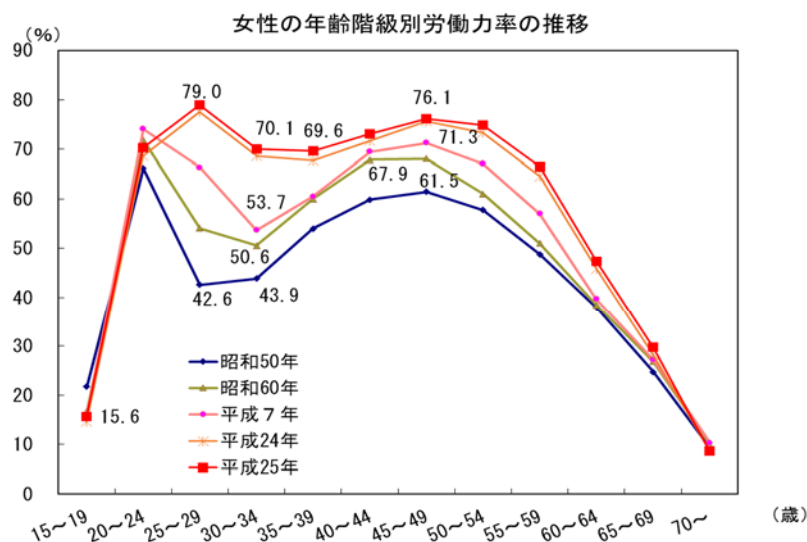
Ⅲ-3-2 図 出産前有職者に係る第1子出産前後での就業状況



(備考)

- 国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査(夫婦調査)」(2011年)より作成。
- 第1子が1歳以上15歳未満の子を持つ初婚どうし夫婦について集計。
- 出産前後の就業経歴
 - 就業継続(育休利用) ー妊娠判明時就業～育児休業取得～子ども1歳時就業
 - 就業継続(育休なし) ー妊娠判明時就業～育児休業取得なし～子ども1歳時就業
 - 出産退職 ー妊娠判明時就業～子ども1歳時無職
 - 妊娠前から無職 ー妊娠判明時無職～子ども1歳時無職

Ⅲ-3-3 図

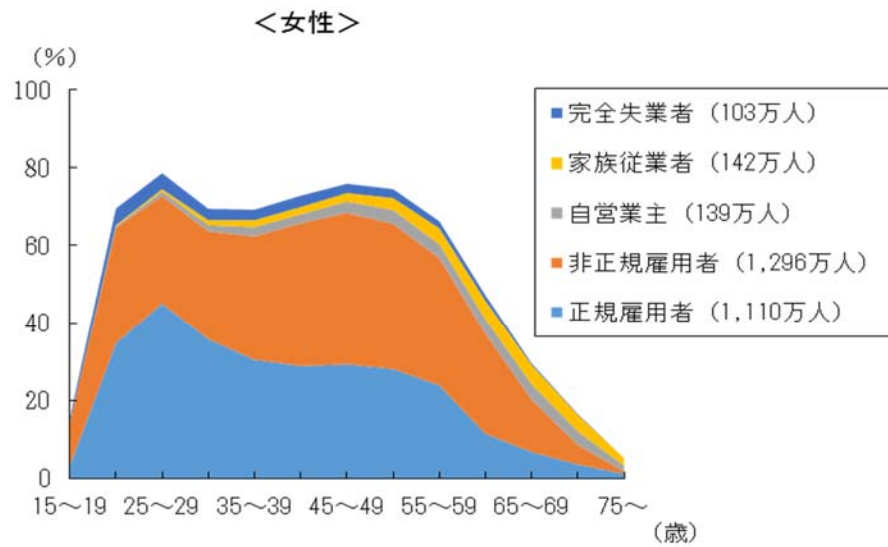


- (備考) 1. 総務省「労働力調査(基本集計)」より作成。
2. 「労働力率」は、15歳以上人口に占める労働力人口(就業者+完全失業者)の割合。

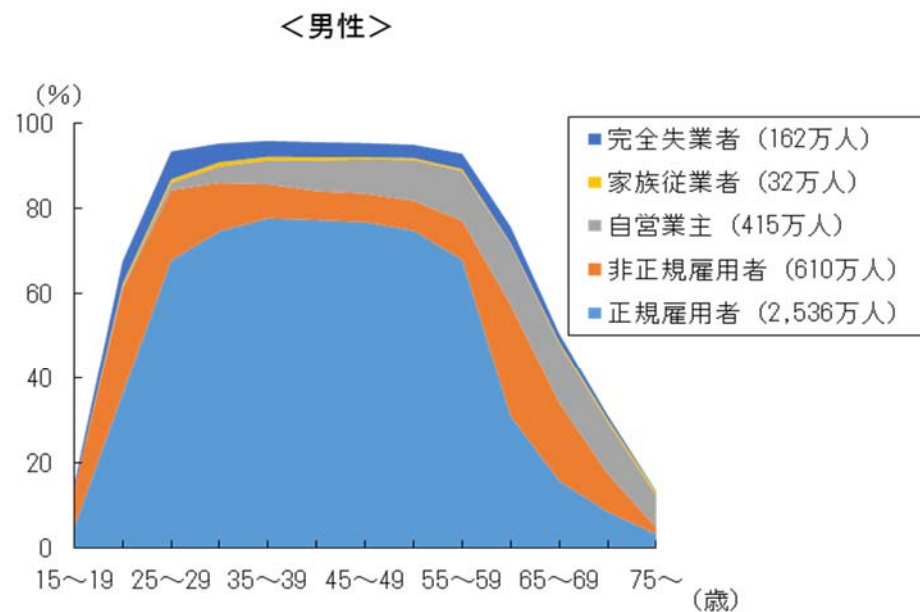
内閣府男女共同参画局「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)レポート2014」より

Ⅲ-3-4 図

年齢階級別労働力率の就業形態別内訳（男女別，平成25年）



15歳以上人口 : 5,738万人
労働力人口 : 2,804万人



15歳以上人口 : 5,349万人
労働力人口 : 3,773万人

- (備考) 1. 総務省「労働力調査（基本集計）」（平成25年）より作成。
2. 正規雇用者は「正規の職員・従業員」と「役員」の合計。非正規雇用者は「非正規の職員・従業員」。

（内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成26年度版」より）

○このため、女性の置かれたシチュエーションを主として子育てとの関係に着目し、「子育て前」(産前・産後)／「子育て中」(乳幼児期／就学期)に分類することに一定の合理性がある。ただし、全ての女性が子を産むことを選択するとは限らず、また子育てに加えて、親の介護その他困難な状況を抱えることもありうるので、こうした点も視野に含める必要がある。

○一方、女性は、何らかの支援を「必要とする」だけではない。すなわち、子育てが一段落した女性は、(もちろん個々の女性の主体的判断によるが)その経験・能力を活かして支援を「提供する」側に立つこともありうることを念頭に置く必要がある。

1

○なお、女性の置かれたシチュエーションの分類に関して子育てに着目したのは、女性が家事・子育て・介護の大半を担っているという現状を踏まえたものであり、女性が固定的に家事・子育ての役割を担うことを是とするものではない。むしろ、男性よりも短い睡眠時間という現象に象徴されるように、妻の家事・子育て・介護の負担が過重になっているとの認識を持つべきであり、今後、男性も家事・子育て・介護に参加することが求められていることも付言しておきたい。

(マインドセット・自己肯定感)

○女性が過重な負担を負うことに陥りがちな理由として、仕事も家事・子育ても全てにおいて完璧でないといけない、という強迫的なマインドセットに自縄自縛になっているためであると推察される。こうしたマインドセットは過度の負担を生じ、本来喜ぶべき妊娠・出産に不安を感じさせ、場合によっては、育児放棄等の痛ましい事態の温床となることすらも考えられる。また、「男は仕事、女は家庭」というマインドセットは、夫が家計を支える高度成長期の一時期には仕事と家庭の在り方として一定の合理性はあったが、共働き家庭が主流である現代においては、このマインドセットを解く必要がある。

¹ マインドセット：教育、先入観などから形成される思考様式、心理状態。暗黙の了解事項、思い込み(パラダイム)、価値観、信念などがこれに含まれる。

○都市化や核家族化が進行する以前の日本社会では、地縁社会や血縁社会のコミュニティにおいて家事・子育て・介護などの助け合いがあり、それは日本の長所であったと考えられる。しかしながら現在、核家族の中で一人の妻に過重な負担が生じている実態があり、これは日本の長所を生かし切れていない状態、改善すべき余地が十分にある状態であると考えられる。家事・子育て・介護で地域コミュニティの力を借りる、また、外部のサービスや製品等によって時短が可能なものは時間を短縮するなど、現代的な新たな支援を積極的に活用することについて、社会全体で肯定的に評価すべきであろう。

○それでは、強迫的なマインドセットを解くことで何が起こるのだろうか。押しつぶされがちな個々人の心に余裕が生じ、個々人が心の豊かさを感じ、また、自己肯定感・自尊感情を持ちやすくなると考えられる。自己肯定感・自尊感情は、生き生きと暮らす土台とも言えるべきものであり、また、子育てにとっても土台と言えるべきものである。特殊な能力を備えた人間でないと仕事と家事・子育ての両立ができないという状況がある限り、社会全体のマインドセットは解かれておらず、社会の中に何らかの歪みを生む原因が潜んでいると考えるべきであろう。

○また、今後、マインドセットを解いていくに当たっては、男女を問わず、家事・子育て、消費生活などをマネジメントする知識・能力である「生活マネジメント力」²を磨くことも大切であろうと考えられる。一人一人がこうした「生活マネジメント力」を身に付けることによって、生活実感に即した社会へと変えていく底力になりうる。

(社会参画による自己実現)

○マインドセットを解くことと並んで、社会参画も重要なキーワードである。人は他者と関わらずに生きるよりも、家族を含めた社会に主体的に関わっていくことで心の豊かさを得ることができるのではないだろうか。こうしたことにかんがみ、すなわち、家族を含めた社会に主体的に参画・貢献し、ひとり一人が自分の能力を発揮できるようにすることは、生き甲斐や自己肯定感の向上にもつながり、生き生きと暮らせる社会へと転換するための重要な要素であると考えられる。

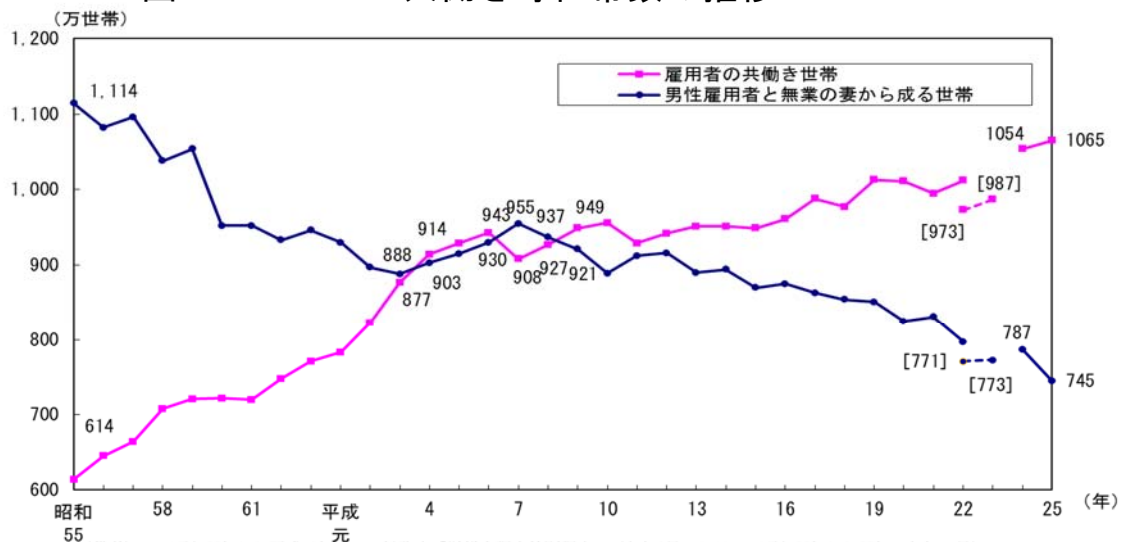
²生活マネジメント力：家事・子育て、消費生活などをマネジメントする知識・能力を指す造語。上記マインドセットの解放にもかんがみ、当該能力には足りない部分は他人の力を借りる力も包含するものとして扱う。

（日本の長所の継承）

○時代によって変わらない日本の良さ（不易）を守るためには、時代に即して変えていくべき点はあるという日本人の智慧についても触れる必要がある。生物の進化を探究し続けたチャールズ・ダーウィンも、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。」という言葉を残している。キーワードは変化であり、重要なのは、何を変え、何を変えないかということである。

○高度成長期とは異なって現代では共働き世帯が主流となっているなど、社会は中長期的に大きく変化している（Ⅲ-3-5図）。一方、国民からは、オリンピック招致で有名になったおもてなしの精神に加え、思いやり、誠実さ、優しさ、おたがいさま、心遣いといった助け合いに関する精神文化、自然を大切にする精神などを世界に発信したいという声が多く寄せられた。これは、こうした価値を引き続き大切にしたいという心の表れと考えられる。日本社会においては大切にされてきた助け合いという「不易」の精神文化を大切にしながら、変化する社会の実情に応じて、マインドセットに囚われずに暮らし方を変えていくために智慧を絞ることが大切であろう。

Ⅲ-3-5 図 共働き等世帯数の推移



- （備考） 1. 昭和55年から平成13年までは総務庁「労働力調査特別調査」（各年2月。ただし、昭和55年から57年は各年3月）、14年以降は総務省「労働力調査（詳細集計）」（年平均）より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査（詳細集計）」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者（非労働力人口及び完全失業者）の世帯。
3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦ともに非農林業雇用者の世帯。
4. 平成22年及び23年の〔 〕内の実数は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

（内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 平成26年度版」より）

（世界への発信）

- また、東日本大震災時には、略奪や暴動が起きない日本人の忍耐強さや規律正しさなどが世界から称賛され、日本人が自らの長所を再認識する契機となった。つまり、我が国の長所を継承・発展するためには、日本の良さを世界に発信していくことも一つの工夫である。その手法として、精神文化はなかなか伝わりにくい面もあることから、日本の良さが凝縮されたような製品等を海外に展開することも効果的であると考えられる。例えば、後述する日本発のキッズデザインは、欧米でも注目されるようになり、現在、国際標準であるISOガイド50（子供のための安全指針）の改定も予定されている。今後、キッズデザインの製品等の海外展開が期待される。

（議論の方向性）

- 女性が活動しやすくするためには、行政における施策の総動員の必要があることは言うまでもないが、それとともに民間の創意工夫ある取組を強化することで、女性が活動しやすい社会へと持続的な変化が促進されることが考えられる。
- 具体的な民間の創意工夫としては、製品、施設・空間、サービス等、様々なアプローチが考えられる。
- 例えば、子育てに関わる家事や労働に使いやすく安全な製品を導入したり、子育て支援機能を有する施設を利用することにより、女性のみならず、男性の育児・家事への参加を促進でき、女性が活躍できる時間の創出にもつながる。こうした製品、施設・空間、サービスを、デザイン面での創意工夫に着目し、以下、各論での記述を含めて、キッズデザインの製品等又は単にキッズデザイン³と総称したい。
- また、子供を産み育てやすい環境、子育てが楽しい社会という観点からは、主として子供に主眼を置いたキッズデザインに加え、今後、多様な母性を大切にするマタニティデザインが重要になる。

³ キッズデザインの製品等：子育て支援や子供の安全・安心に資する多様な製品、施設・空間、サービス。〔NPO法人〕キッズデザイン協議会では、「キッズデザイン賞」という形で、キッズデザインの製品等を表彰している（これまでの8回の表彰で、内閣総理大臣賞を含めてのべ約1200点を表彰。）。

(ポスママ活躍社会を目指して)

- また、ポスママ（子育ての一段落した女性）の様々な経験・能力は、地域コミュニティなど社会にとって大切であり、今後、「Ⅱ．総論」で述べたような社会を形成する大きな原動力となりうる。

(2) 暮らしの質向上に向けた取組

1) シチュエーション別の活動しやすくする民間等の創意工夫

上記(1)に基づき、

ア) ニーズを抱えている状況として、①子育て前(産前・産後)、②子育て中(子どもが乳幼児)、③子育て中(子どもが就学)、④介護・困難な状況、イ) 社会への参画として、⑤ポスママ・先輩ママ活躍

のシチュエーションに分類して考察した。これらのシチュエーションごとに、必要な視点・要素、望まれる実践提案、及び、民間等の創意工夫の先駆的な取組事例等を紹介する。

ア) ニーズを抱えている状況

① 子育て前(産前産後)

地域コミュニティでのつながりにより、孤立化を防ぎ、妊娠・出産への不安を取り除くとともに、産前産後をラクにするようなモノ、サービス、場づくりにより、完璧であらねばというマインドセットを解くことで、育児スタートラインがラクになり、子育ての土台となる自己肯定感、自尊感情を醸成する。

(マインドセットを解き、育児スタートラインをラクに)

完璧であらねばというマインドセットを解き、本来喜ぶべき妊娠・出産というライフイベントを楽しいと感じることができるようになるため、産前・産後をラクにするような、商品・サービスの提供、先輩ママや専門家による情報・ケア、地域コミュニティでの支援等を行う。また、こうした取組は、特に産後に陥りやすい、産後うつ、自己認識障害の克服に寄与する。

(孤立化を防ぎ、自立を促す)

人と人のつながりが希薄になる中、周囲に教えてくれる人がおらず、産前・産後に不安を抱えてしまうという状況に対応するため、コミュニティでのケアを行うことや、抱え込む、手を出しすぎる子育てケアから自立を促すハンズオフケアへ転換は、孤立化を防ぎ、自立へとつながる。

(女性の心と身体の健康をサポートする)

女性の心と身体について、先輩ママからの経験に裏打ちされた助言、適正な情報が得られる環境を提供することによって、不安の払拭、健康維持・増進、希望に応じた様々な人生へとつながる。

（青少年期のマインドセットを解く）

マインドセットを解くには、遡って、人格の形成期である青少年期は重要な時期であり、この時期に、例えば男女が協力する家族観を育成すること、職業観・社会貢献の精神を涵養することが重要である。その際、抽象的概念としてではなく具体的に、幼児との触れ合いやワーク・ライフ・バランスの実例を学ぶことによって、より関心を深めることができる。また、マインドセットを解きやすい自己を確立するため、自己肯定感の醸成、コミュニケーション力の育成も重要であろう。

こうした人格形成により、青少年期に生き方を見つめ、仕事、結婚、出産、育児等といったライフイベントにおいて、マインドセットに流されず、自らの人生を主体的に選択する姿勢や能力を身に着けやすくなると考えられる。

なお、既に働いている人々のマインドセットを解くためのユニークなショック療法的な手法として、②に述べる子連れ出勤が考えられる。子連れ出勤は、仕事と家庭を両立しやすい職場風土の形成や、子供の職業観の涵養に、大いに寄与すると期待できる。

<民間等の創意工夫の事例 ①子育て前（産前産後）>

子連れ出勤の商店で情報・ケア 外出をラクにする授乳服



街角のショップで、子連れ出勤のスタッフが、産前・産後に関する自らの経験に基づいた情報提供、相談等を実施。
なお、左の写真は、外出時でも授乳できるよう開発された「授乳服」の販売の様様。

有限会社モーハウス

出産・育児を社会にアピールするイベント 子連れ出勤企業へのインターンシップ



母親だけでなく多くの世代に、自分らしく子育てする姿を見せるイベント、産後陥りやすい「自己認識障害」を克服するワークショップ、子連れ出勤企業へのインターンシップにより、出産・子育てを楽しむ意識を醸成。

NPO法人子連れスタイル推進協会

「産院が街をつくる」



子育てコミュニティや里帰り出産を提案。
産院内は、産院を利用する人々のコミュニケーションが生まれることを意識して、待合をメインストリートとし、その先に広場を設けている。
また、食育の視点から敷地内に畑も併設。

医療法人社団マザー・キーファミール産院 君津/
株式会社ドムデザイン

産後のヘルスケアプログラム



専門家がいなかった「産後」の分野において、運動生理学に基づく女性の心と体のヘルスケアプログラムの調査・研究・開発・啓発活動を実施。母となった女性が養生とリハビリに取り組むことで産後の健康な心と身体を取り戻し、家庭で、社会で、本来持っている力を発揮できる社会の実現をめざしている。

NPO法人マドレポニータ

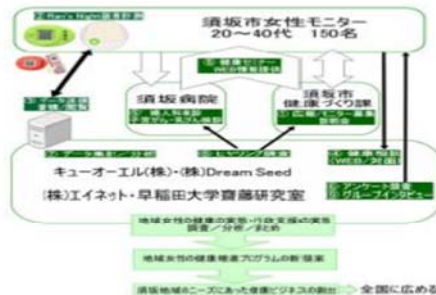
まるのうち保健室



東京丸の内を中心とした働く女性のための街の保健室。体組成、ヘモグロビン、骨密度の測定、食生活診断アンケートの後に、管理栄養士より10～15分の食生活アドバイスを受けることができる。主な内容は、女性の叶えたい身体づくり、女性特有の身体の悩み（月経不順、妊活、慢性疲労など）に関してどのような食生活にすればよいか、というもの。多くの働く女性が気軽に立ち寄れて、ワンコインで自分の身体と対話できる場づくり。2014年度全9回開催。30代を中心とした働き世代の女性が1,000名以上参加し、大きな反響を呼んだ。

Will Conscious Marunouchi 実行委員会
(三菱地所㈱、三菱地所プロパティマネジメント㈱、一般社団法人Luvtelli、㈱タニタ、
㈱ABC Cooking Studio、聖路加国際病院附属クリニック 聖路加メディローカス)

地域女性の健康増進プログラム



女性特有の月経をポジティブにとらえ、基礎体温変動から判る月経周期の各ステージを意識したセルフケア、簡便な計測や記録により健康サポートを実施。

須坂市『女性の健康応援団』
(キューオーエル株式会社/株式会社Dream Seed/
株式会社エイネット/早稲田大学/
長野県須坂市/長野県須坂病院)

衣服内温度計「らん'sナイト」



女性の健康のバロメーターと言われつつ毎朝の計測がたいへんな従来の基礎体温計測にかわり、眠っている間に自動的に自分のからだのリズムをとらえたい！という、現代女性のニーズを反映した新しい計測方法簡便な計測に加え、携帯電話から非接触通信でサーバーにデータを蓄積でき、セルフケアに最適な製品。

キューオーエル株式会社

母子手帳アプリSUKUSUKU



エコー写真、健診内容、予防接種記録、成長記録等を保存できるアプリ。アプリ内のカフェで、先輩ママに相談でき、不安を取り除くことができる。

NHN Service Technology 株式会社

「Edu Town あしたね」 (職業調べ、仕事人インタビュー)



約300人の職業人の仕事・職業インタビュー記事を掲載。仕事の内容はもちろん、働いている時の気持ち、生き方や子どもの頃の話もある。具体的であるため、職業観・勤労観の育成、自己実現の促進、自立支援につながると期待される。

東京書籍

赤ちゃん先生プロジェクト



赤ちゃんとその母親が教育機関や高齢者施設等に出向くことにより、現代では触れる機会の減った赤ちゃんに触れる機会を提供(「赤ちゃん先生クラス」)。赤ちゃんの力に着目し、逆転の発想で子連れがメリットになる働き方を創る。

NPO法人ママの働き方応援隊

② 子育て中（子どもが乳幼児）

事故・病気の危険性のより大きい乳幼児を育てやすくするため、地域コミュニティにおける助け合いや、動きやすさ・時短を可能とするモノ、サービス、場を提供する。これにより、全て背負わなければというマインドセットを解き、心に余裕が生じ、自己肯定感・自尊感情を持ち、親子ともに生き生きと暮らす環境が形成される。

（コミュニティの助け合い等により自己肯定感を醸成）

孤立しがちな時期に、先輩ママの生の情報を入手することやコミュニケーション・ネットワークの場である地域コミュニティでの助け合いが行われることは、自己肯定感を醸成する上で重要である。

「子育て支援策等に関する調査 2014」（三菱 UFJ リサーチコンサルティング株式会社）においても報告されているが、地域の中での子どもを通じた付き合いの度合いと子育ての楽しさの感じ方の度合いは相関があり、地域コミュニティとのつながりが、孤立化・負担感増加の軽減に寄与すると考えられる。

（安全・安心なキッズデザイン）

乳幼児保育に特に重要なこととして、如何に事故から守るかがあげられる。東京消防庁の統計によると、平成 25 年までの 5 年間で 0～5 歳の乳幼児の事故の救急搬送が年々増加しており、より安全で、子供の成長に合わせたキッズデザインに代表される製品・サービス、子育てしやすい環境の整備等は重要である。

（病児保育への対応）

事故と並んで、時間的猶予なく対応が必要なことの代表例が、急病の際の保育である。病児保育サービスを受けられる環境を提供し、急に仕事を休むことが困難な状況にある場合の支援が円滑に行われることは、子どもの心身の発達にとっても大変重要である。

（より動きやすく、時短に）

子連れでの移動、子供だけでの移動をよりしやすくするサービスや、家庭と職場をより短い動線、より短時間、小労力で活動できること、地域での子育てシェアは、この時期の日常生活において貴重なゆとりを生み出す。

(子連れワークスタイル)

子連れ出勤等を通じ、社会に接点を多く持って成長した子どもは、最も頭脳のシステムが形作られる時期に多様な大人たちの反応に触れて成長するため、多様な人間関係を形成できる社会性を身につけやすい。子どもの育成環境と働く環境を同時に達成することができる子連れワークスタイルは、社会の進化にとって大切な試みである。

また、子供の急病時に代表される困難な状況と仕事との両立を可能にする働き方として、究極の職住近接である自宅でのテレワークがある。今後、多様な働き方の一つとしてのテレワークの普及が望まれる。

なお、女性は概して同時並行で複数のタスクを処理するマルチタスクの能力が高いという脳科学における見解もあり、この見解が正しければ、女性の働き方として、子育てワークスタイル、テレワーク等は、仕事の質を維持しながら仕事と子育てを調和させる有力な方法となりうると期待される。

以上のような商品・サービス・仕組みの普及推進が、乳幼児の心身の健やかな成長にとって大きく寄与するとともに、乳幼児保育期における子育ての下支え、サポートになり、育てる側の精神的、身体的、時間的余裕を生むことが期待される。また、育てる側が余裕を持つことが、子どもへの更なる好影響へとつながる。

これらの推進に当たっては、子育て世代の平均値ではない生活実態を深く調査し、真のニーズの掘り起こしていくことが重要である。

＜民間等の創意工夫の事例 ②子育て中（子どもが乳幼児）＞

子育てシェア



支援を必要としている人と経験や知識を活かして子育て世帯を支援したい人や事業者をつなぎ、親の緊急時に、登録のある地域家庭にワンコインで子供を預けることができる仕組みを構築。
株式会社AsMama

子連れワークスタイル



古くて新しいワークスタイル＝赤ちゃんと一緒に働く姿を多世代に発信。子連れをもっと自由に、もっと楽しくする働き方「子連れスタイル」は、子連れでの行動や職場での働き方の多様化を促す可能性。

NPO法人子連れスタイル推進協会

げんきキッズクリニック・げんき夢保育園



小児科＋保育園により、病児保育まで可能な保育園。子育てと仕事の両立支援に寄与。

株式会社日比野設計/幼児の城/
医療法人社団健輝会

駅型保育園



働きながら子育てする親のため、立地は利便性の高い駅のそばで、開所時間は勤務時間に配慮した認可・準認可保育園。

また、子どもが長時間過ごすにふさわしい環境づくり（園庭の確保等）を行い、地域のニーズに合わせた延長保育や一時保育にも対応、「仕事と子育ての両立」を応援。

子育てコミュニティ活動



子供の健全な成長をサポートする「子育てコミュニティ」を開設、育児サポート型ワークショップを日々開催（年間1,000回以上）。開催頻度が高いため、地域の子育て層のサロンになり、地域コミュニティの形成にも寄与また、百貨店にとっても滞在時間の長時間化につながり、Win-Winの関係を築ける。

株式会社 阪急阪神百貨店 西宮阪急

病児保育・病児後保育



「子どもが急に熱！」の悩みを抱える働く親のニーズに応じて自宅訪問型の病児保育事業を展開。特徴としては、急なニーズに対応した当日予約可、朝8時までの予約に100%対応、病児保育専門の保育スタッフによるマンツーマン保育、病院への受診代行・医師の往診等。

認定NPO法人フローレンス

託児ルーム併設歯科医院の取組



歯科医院が、専門の保育士を置く託児ルームを併設。各種教室・イベントを行うことで地域コミュニティの再構築を目指す。地域の児童・保護者にとって親しみを持ってもらうことで、歯科医院にとってもプラスとなる。

歯科医院空間は中でつながっており、地域交流の拠点に。

みどりの丘歯科医院/こどものへや ぶどうの木

育児相談ほっとライン



「インターネットなどは情報も多く、十分に安心できない」との声を受け、育児の悩みなどを相談できる、専門家による24時間365日対応の電話相談。小児科医、看護師、保健師、管理栄養士が対応。

日本生命保険相互会社

のりかえ便利マップ



妊婦・子育て中の親の負担軽減のため、各駅のエスカレーター、エレベーター等に何両目が近いかを表示。

負担・ストレスの軽減により、複雑化した都会の路線が移動中の親子に優しいものに。

駅の動線制御や事故防止にも寄与。

株式会社ナビット

公園併設の滞在型図書館



大正8年に建設された赤レンガ倉庫を活用し、公園隣接、吹き抜け空間、中庭、カフェの併設により、ゆったりした、明るく親しみやすく長く滞在できる空間。子育て中の親と子、高齢者等が集い、地域コミュニティづくりに寄与。

北区立中央図書館

指はさみ防止配慮の開き戸



大和ハウス工業株式会社

授乳室・おむつ替え検索地図アプリ



最寄りの授乳室・おむつ替えスペースを検索できるマップ・アプリ（ユーザーが情報を登録できる自己増殖型）。ICTにより、乳児を持つ親が安心して外出しやすい環境を構築。

インターリンク株式会社

金沢市ベビのり（シェアベビーカー）



ママもパパもうれしい♪

金沢市公共
レンタベビーカー

3ステップで簡単レンタル！

- 1 かりる
MAP（画面）のいずれかのポートで、申込用紙に記入し、200円をお支払い。
- 2 つかう
ベビーカーを借りて、観光や買い物などを、存分に楽しもう。
- 3 かえす
MAP（画面）のどのポートでも返却できます。

子育て中の移動しやすさを実現するため、買い物でも、観光でも、金沢市内の7か所のポート（拠点）であれば、どこでも借りられてどこでも返せるシェアサイクルのベビーカー版。移動中の親の負担・ストレスの軽減に寄与。

金沢市

蒸気レスIHジャー炊飯器



子どものやけどを防ぐ
三菱電機株式会社

転倒流水構造つき蒸気レスケトル



子どものやけどを防ぐ
タイガー魔法瓶株式会社

子どものやけどを防ぐ

③ 子育て中（子どもが就学）

地域コミュニティや多世代での助け合いを推進すること、生活マネジメント力を醸成すること、安全・安心を守ること、モノ、サービス、場づくり等が、子どもの社会からの孤立を防ぎ、健やかな成長の下支えとなる。

（多世代、コミュニティでの助け合い、生活マネジメント力の醸成）

多世帯の交流可能な住居などの民間でのコミュニティづくりの創意工夫、子育てをしながらスモールビジネスができる空間づくり、祖父母の協力と教育がしやすい三世帯同居の推進等により、社会における「場の提供」を行うことが、就学期の子供の健やかな成長につながると考えられる。

（子どもの社会からの孤立を防ぐ）

就学年齢に達した子供は、その成長に伴い、乳幼児期より精神的なサポートが重要になってくると考えられる。

家庭、学校、地域の中に自分の居場所を見出すことが難しい子供が社会から孤立しないように、居場所や学習の場を提供し、子供の成長を支援する多様なコミュニティを形成することは大きな意味を持つと思われる。

（子どもの外出時の安全・安心）

子供だけでの移動をよりしやすくするサービスや子供の安心な移動を支援するサービスの提供により、子供の家庭の外における活発な活動を支援することで、子供の社会性の醸成等を下支えすると考えられる。

以上のような、地域コミュニティ、社会全体で子どもの成長を見守ることができるような仕組み、サービス、商品の普及が期待される。

＜民間等の創意工夫の事例 ③子育て中（子どもが就学）＞

都心の子育てSOHO



自宅で子育てと仕事を両立させたい個人事業主のための都心型賃貸住宅。実際に暮らしつつも、部屋全体を、イベントやセミナーの会場に活用できる。壁一面の黒板、キッチン中心の配置など、育児にも役立つ最適な環境を整備。

一級建築士事務所グッドデザイン
代表牧野直子氏

アフタースクールプロジェクト



全国の学童保育等を支援する為の事業として開発。学童保育の場を学びや体験につなぐ、リアルとネットを組み合わせたテーマごとのプログラムを開発。モデルプログラムの全国各地での開催と、ネット上でのプログラムの動画配信・プログラムスライドやペーパークラフト等各種ツールの無償提供等を実施

住友生命保険相互会社／
特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクール

多世代居住の「ひと縁」をつくる



「子育て向け住宅」と「シニア向け住宅」の併設による「多世代交流型マンション」。共通スペースやイベントを通じて交流を図る場を提供、コミュニティ機能の復活をめざす、集合住宅でも可能な社会提案のこれからの形。

積水ハウス株式会社/積和不動産株式会社

ペアレンティングホーム



子育てと仕事を楽しく両立できる住環境整備を目的としたシングルマザー専用のシェアハウスとして育児サポートや子育ての悩みを共有するプラットフォーム。ハードだけでなく研修を受けた専門スタッフの訪問チャイルドケアも実施。

一級建築士事務所秋山立花

居場所を提供し孤立を防ぐ



家庭、学校、地域の中に自分の居場所を見出せない子供に居場所や学習の場を提供し、子供の成長を支援。川崎市とNPOの協働事業として公設民営型のフリースペースとして誕生。生涯学習(社会教育)の視点で学校外で多様に育ち・学ぶ場

NPO法人フリースペースたまりば

子育てタクシー



妊婦や赤ちゃん連れ、子どもだけの移動などに対応するタクシーの地域密着型配車サービス。幼児用品やベビーカーの乗せ降ろしなどの補助もあり、ドライバーの9割が女性。育児経験やホームヘルパー2級の資格を取得。

子育てタクシー(茂呂運送株式会社)

あんしんグーパス



交通ICカードを活用し、子どもが通学などで駅の自動改札機を通過すると、保護者の携帯電話へ乗降日時情報などをメール配信サービス。既存の機器にて移動の際の見守りを実現した社会基盤づくり。

アイテック阪急阪神株式会社／
スルッとKANSAI協議会

④ 介護・困難な状況

介護や様々な困難な状況に寄り添うケア、就労、多様な働き方のサポート等の仕組み・環境づくり、生きづらさを抱える人への生活相談・支援、交流等を推進することにより、社会から孤立を防ぎ、自立を支援する。

（介護する人へのケア）

介護には終わりが見えないとよく言われるとおり、先の見通しが立たない点で育児とは異なる困難さがあると考えられる。

介護する人に対するケア、サポートの仕組みづくり、サポートの実施により、介護する人の孤立を防ぎ、社会へつなぐことができる。

（様々な状況に応じた多様な働き方）

多様な働き方を支援又は推進する仕組みの構築、多様な働き方ができる風土の醸成等により、介護等を行う人がその能力を発揮しやすい環境を提供することも大きな支えとなる。

（困難な状況に寄り添い自立へ）

シングルマザー、乳幼児を抱えながらDVを受けるなど様々な困難な状況、生きづらさを抱える女性の生活相談・支援、交流等を実施することにより、社会からの孤立を防ぎ、就労や将来に向けた自立を支援することは、包容力のある社会を形成する上で重要である。

（様々な困難な状況をサポート）

難病等生活しにくい状態にあり、身体的にも精神的にも苦しい状況にある人に対し、サポートする製品・サービス、コンサルティング、就労支援等によって、より活動しやすい状態へと手助けすることにより、希望ある将来につなぐことができる。

<民間等の創意工夫の事例 ④介護・困難な状況>

介護ケアのためのケア(P)



「ケアする人のケア」を掲げた市民団体。介護する人への直接的なケアやサポートのしくみづくり、孤立しがちな介護者を社会へつなぐしくみづくりをめざしている。

Carer's cafe&dining
アラジン

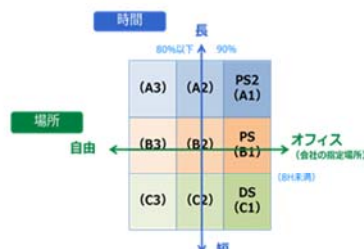
心のオアシス電話

NPO法人
介護者サポートネットワークセンター・アラジン

多様な働き方・働き方改革

選択型人事制度

ライフスタイルに合わせてワークスタイルを選択



「100人いれば、100通りの人事制度があってよい」従業員一人ひとりの個性が違うことを前提に、それぞれが望む働き方や報酬が実現されればよいという考え方。ライフスタイルに合わせたワークスタイル（時間と場所の2軸で9象限のスタイル）の選択型人事制度を運用

サイボウズ株式会社

生きづらさを抱える10代20代の女子のための女性による支援



若年女性に寄り添い、時間をかけて課題を解決していくピアサポート、居場所づくりが必要。「聴く」「伝える」「繋げる」を軸に、メール相談、夜間・休日相談、携帯電話による電話相談、該当パトロール事業を実施。対象者と年齢層が近い若年女性がスタッフとして、行政窓口に行くことができない人たちとの接点となり、行政の必要部署につなげる。

NPO法人BONDプロジェクト/荒川区

女性・シングルマザーと子どものための支援の居場所づくり事業



DVに悩んでいる女性、シングルマザーと子どもの孤立感を解消、安心や自信を回復し、生活再建を支援するため就労準備支援事業を実施。神戸市パートナーシップ事業において、学習面で課題や不安を抱える人に対して無料の学習塾を開催し支援。

認定NPO法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ(WACCA)

がん患者の就労を支援

患者自立をめざし、患者一人ひとりの体験活用(能力開発)の場を提供するとともに、企業内でのがん教育・意識改革、さらには社会全体の意識改革を進める。学会・フォーラムなどのイベントの企画・運営、企業内でのがん患者復職支援や雇用継続プログラム、社員教育への講師派遣、医「スキルマッチング」や「スキルアップセミナー」を展開。



がん患者・ソリューションズ株式会社
マザーズハウス/がん患者・ソリューションズ

イ) 社会への参画

⑤ポスママ・先輩ママ活躍

個々の経験や能力を活かし、家族を含めた社会に主体的に参画・貢献できる環境づくりを推進することにより、個々の生き甲斐や自己肯定感の向上を図るとともに、貴重な経験や能力を地域や次世代等に還元できるようにする。

(社会参画による自己実現・自己肯定感の向上)

子育てがひと段落したポスママ世代や、地域、次世代等に貢献したいと考えている人が、その経験や能力を活かして、社会への主体的な参画（例えば、放課後の子供の預かり等地域の子育てサポート、様々な知恵の伝承等）は、その地域、次世代にとって大変有益である。また、ポスママの側でも、主体的に関わることで心の豊かさを得、社会の役に立つことで生き甲斐や自己肯定感の向上につながるとともに、老後に向けて、月 10 万円程度の収入を得る手段となりうると思われる。

(仕組み、環境づくり)

家事・子育ての経験・能力を有するポスママ・先輩ママの登録制によるサービス提供の仕組みが考えられる（サービスの例：母の味を活かす子供向け惣菜提供ビジネス、子育てに関する知恵の伝承スクールなど）。こうした取組により、子育てママ等に生きた経験・能力を継承することができる。

また、ピアノ教室、料理教室、喫茶店、ハンドメイド商品の販売その他の小規模のビジネスを営むことのできる住宅の供給、公民館や図書館の活用、ネット販売マーケットプレイスの提供により、こうした小規模ビジネスのチャンスを拡大し、社会に根付かせることに寄与する。

(起業サポート)

起業を応援する施策、仕組み等により、意欲のある女性の能力が活かされ、その社会への貢献により、より良い社会につながる。いくつかの企業においても、中長期的な社会課題の解決と経済活動の両立をめざし、業種に応じた起業支援に関する企画、取組がされている。

近年注目を集めているクラウドファンディング（インターネット経由で不特定多数の人から資金を調達する仕組み）も、起業を後押しし、国民の希望を形にする有用な民間の取組の 1 つである。

（地域コミュニティでの場づくり）

地域においてアクティブな人材の参画を促す様々な場をつくることにより、地域コミュニティが活性化し、助け合い、生き生きと暮らせる社会の形成が可能になる。

<民間等の創意工夫の事例 ⑤ポスママ・先輩ママ活躍>

アクティブシニア家事代行サービス



料理、買い物、洗濯。片付け。整理整頓、送迎などの家事を中心に、各社の研修を受けた主婦経験豊富なベテランスタッフたちが行う家事サポート。子育て支援割引やシニア割引などもある。創業20年以上の会社では長い経験を生かしたきめ細かいサービスプランを提供している。

(株)ダスキン、フラオ グルッペ(株)、ミニメイド(株)、(株)モーリーメイド

From Kitchen プロジェクト



時間を短縮しつつもおいしく健康な食卓をつくる方法、素材の知恵、行事と食事の知識を提供。同じ境遇のママ同士、おばあちゃん世代との交流を促進し、孤独になりがちなママにほっとできる空間を提供。

株式会社オリーブ&オリーブ

子連れ出勤の商店で情報・ケア 外出をラクにする授乳服



(再掲)
「社会と子育てをつなぐ」をコンセプトに、街角のショップにおいて、ワークライフバランスを体現する先輩ママである子連れスタッフが、産前・産後にに関する情報提供、相談等も実施。貴重な経験を継承していく。

有限会社モーハウス

訪問型保育から必要と思われることを事業化



札幌市とその近郊で、子育て支援事業を行う10団体で構成されるNPO法人(160名で組織)。女性ならではの視点とネットワークの良さを活かし、関わる親子から見える悩みや不安を解消できるよう、居宅訪問保育を基に居場所作り・おもちゃフォーラム・講演会などを開催。

NPO法人北海道子育て支援ワーカーズ/札幌市

家事・子育て経験を活かす民間資格



「ドゥーラ」とは、妊娠・出産・子育てをする女性を、地域社会で支える存在。実家の親のように産後女性特有のニーズに応えられる、出産前後の女性に寄り添い支える「産後ドゥーラ」を養成。一定の研修後、筆記試験、面談後認定。家事・子育て経験を活かして活躍。

一般社団法人ドゥーラ協会

出産・育児を社会にアピールするイベント 子連れ出勤企業へのインターンシップ



(再掲)
先輩ママの経験を生かして、産後陥りやすい「自己認識障害」を克服するワークショップや子連れ出勤企業へのインターンシップを実施。妊産婦の不安を取り除き、自己肯定感を醸成。

NPO法人子連れスタイル推進協会

子育てシェア



(再掲)
登録のある地域家庭が急な用事が発生した親の子どもを預かることができる仕組みを構築。

株式会社AsMama

子育てコミュニティ活動



(再掲)
「子育てコミュニティ」を開設、育児サポート型ワークショップを日々開催(年間1,000回以上)。先輩ママが経験を生かして地域の新米ママに経験を伝授できる環境となりうる。

株式会社 阪急阪神百貨店 西宮阪急

子育てタクシー



(再掲)
妊婦や赤ちゃん連れ、子どもだけの移動などに対応する、地域密着型タクシー。幼児用品やベビーカーの乗せ降ろしなどの補助あり。ドライバーの9割が女性で、育児経験者やホームヘルパー2級の資格取得者。

子育てタクシー(茂呂運送株式会社)

のりかえ便利マップ



(再掲)
子育て経験のストレスから、妊婦・子育て中の親の日常の空間における負担・ストレス軽減のために乗り換えマップを開発。「必要は発明の母」であり、子育て中の経験はビジネスになりうる。

株式会社ナビット

認知症サポーターキャラバン



認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを全国で養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを行っている。

全国キャラバン・メイト連絡協議会

女性起業サポート



女性による新しい視点での新ビジネスの成長を支援するため、資金、ネットワーク、起業ノウハウ等を総合的にサポート。

【支援の特徴】

- 女性新ビジネスプランコンペティションを開催し、女性の起業を発信
- コンペティション受賞者には1,000万円(大賞)の事業奨励金と、外部の専門家と連携したメンタリング(事後支援)体制により事業を支援
- 応募者等を含む女性経営者を対象に、各専門機関や地域支援機関と連携して起業に役立つセミナーや先輩経営者の講演等を開催

株式会社日本政策投資銀行

園児と高齢者の交流



高齢者との交流が子どもの脳に与える好影響の科学的な実証のもと、保育園と高齢者施設の両方を有する利点を活かした相互交流プログラムを実施。社会性や協調性を育むと同時に高齢者の脳の活性化にもつながる。

学研ココファングループ((株)学研ココファンホールディングス/(株)学研ココファンナーサリー/(株)学研ココファン)

公民館での年長者の知恵の伝承



地域活性化の中核として、住民、社会教育施設、各種団体や学校と協力しながら、三世帯交流ができる伝統行事や地域資源を題材としたふるさと教育を実施。世代の参加者交流により、年長者から歴史や伝統にまつわる話の伝承などの効果的な学習活動

富山県魚津市村木公民館

絵本を通した「こども図書館」



次世代を担う子供たちに、自立し、考える力をつけるには乳幼児期からの読み聞かせが大切。

市民ボランティアを中心とした、お話会や各種イベントを毎日開催。読み聞かせボランティアを対象とした研修を定期的に行う等、ボランティア育成の充実とボランティア講師の養成を図る。

柏市立図書館こども図書館

2) 豊かでゆとりある家庭生活の実現に向けた施策

政府においても、豊かでゆとりある家庭生活の実現に向け、以下の施策を推進する。

○夏の生活スタイル変革

個々人がライフスタイルに合わせて仕事ができるようになることを最終目標として、まずは、明るい時間が長い夏の間は、「夏の生活スタイル変革」として「朝型勤務」、「早期退庁」を推進し、この取組を国全体に浸透させる。

○共食（食育）の推進

第2次食育推進基本計画に、家族との「共食」（家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図ること）は、望ましい食習慣の実践や、食の楽しさを実感させる精神的な豊かさをもたらすものとされており、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）等の推進にも配慮しつつ「共食」の回数の増加を目指す。

○三世代同居・近居

家族において世代間で助け合いながら子や孫を育てることができるようにするため、三世代同居・近居を希望する方がその希望を実現できるよう三世代同居・近居を支援するための優遇策等の方策を検討する。

○街なか居住等の推進

職住近接で子育てしやすい都心居住、街なか居住を実現するため、住宅の供給や良好な住宅市街地などの環境整備を行う。

○テレワーク

ICTを活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を実現するため、専門家派遣等の人的サポート、セミナーやシンポジウムの開催を通じた普及啓発など、テレワークの導入促進に積極的に取り組む。

○駅や小売店等を活用した子供との外出を応援するサービス等の提供

子供を連れての外出が、支障が少なく楽しいものとなるよう、駅や小売店等において、子供との外出を応援するためのサービス等の提供が行われるよう要請し、環境の整備を図る。あわせて、公共交通機関における優先的な乗車など、子供連れの家族への配慮が行われるよう要請する。

○「女性応援ポータルサイト」の機能強化

「安心して出産をしたい」「就業・再就職したい」等の女性のニーズに合った関係府省等の支援情報を整理し、分かりやすく案内するポータルサイト（平成 27 年 3 月開設）について、掲載情報の充実や機能強化を図り、女性が必要とする情報をきめ細かく入手できる環境を整備する。

（３）今後に向けた提言

（４）マップ等参考資料